© The Tiffen Company, 2000
KODAK Gray Scale
Kodak
LICENSED PRODUCT

1961
120
3/1

120

120
遠
1.261
64
冊合

1961
120

種蒔三世相自叙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

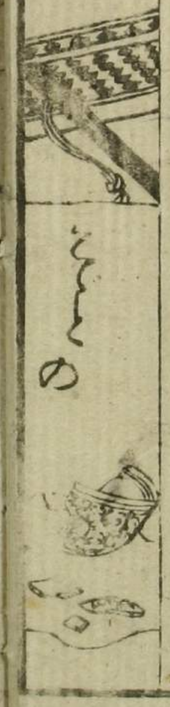
享和壬戌春帝端月　著作堂主人馬琴述

永代常夜燈
享和二年壬戌正月吉日

壁ふ大小の差ありて。筑ゝ機関の
糸ゐ。玉田王と殖て。玉まきく
多く。観官銭を時て。
銭いとく少し。懶ひ
者叫化子。日小懸
河の弁を畊して。
笑ひの種とあるをふ富り。
元日や喜怒哀楽乃種おろし

父
子
母

○喜怒哀楽種物八品



○六十餘州人間種蒔

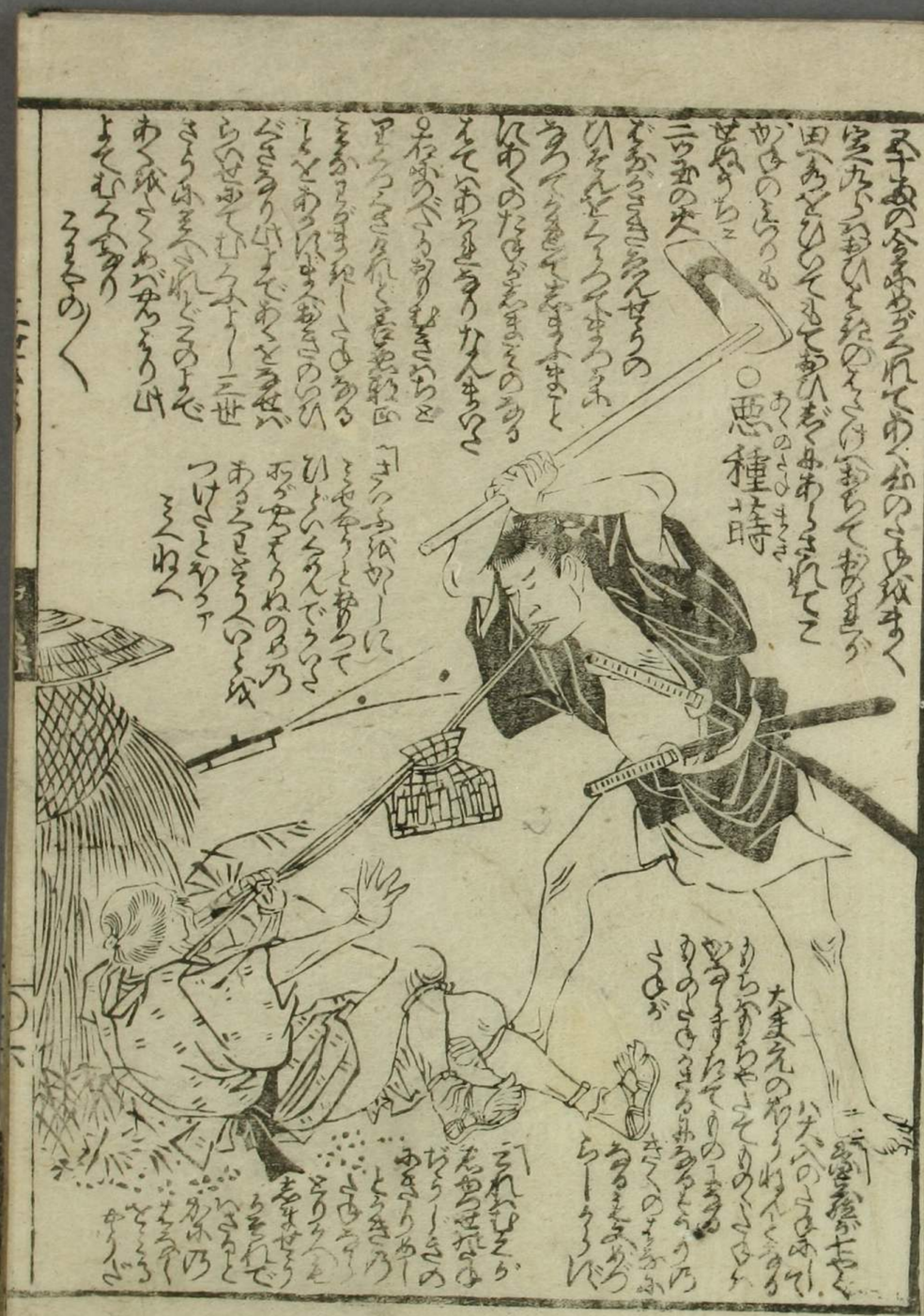
○凡夫案山子
本国
神儒仏三教一体

朱文公勸學文庫舊跡

○學問畑

種蒔

通油町
鶴喜板
壬戌
稗史
笠畸作
種蒔
三世相
稿裁着
中



○悪種蒔

七去のつみにはちをもちあるれハさるとありて女がうまずめをさるとあれバでんぢくをまきけれバこのてかれ
志ぶんの子よ公家ひねもすさんざんなさかきまをしてこのふでうきくや畑をやとふまめのありき天のとあり三
たのしみにも種を蒔ことのあめありて子供乃ほしさに一ツ井戸のまへのものをおもひてかのさかしけ球あがりとけひ
ところがおりしも畑をかへアちぎ二へんのゆくへみておやのさだけさ女がうとまりうぎ千にせいどし
種を蒔つのアそこうにはまよひ志ゆ人のむすめをそへのまへやうらうさ女ら二人ながきなじんてきき
女ら人ひまこえのりひとつのせんぺと女まくらうぱいちら畑を蒔種を蒔の女がらさありあちせまておちかね月
ようめからおりくありあたのそうかうきりまへまるけ女の畑をかふが女ばうハいろくなあふきやまめらの
下田まれどもとこうろさやきゝ種を人が女がらハおうひさふくろまろてそぶらざけちらく上田
さま上べきえてはさ一すぐちにはよふありぐちくろりあひのよく音上べてハ一ゃのでいきかゆ頼どがい
志ま上ばあへのさざらほのけすへいさむるをさうきんまろ下回の八刀解（げんくまのぶんかい）ときゝけ

○妹夫種蒔（いもせのたねまき）　上下

あさのあるひとのぶれい
おのづからあくかきの
ゆうれいとりとりおのづ
からはるこうぶりとそ
ざらたぐあきあきとそ
の考ひけてもてやらぎ
みをぞうらくかをとり
とあかりたけうちのい縁の
ぶしくされかんさをうぶれ
田の苦いをやはの又はれうろか
わしかりしのえぐさんのづるふ
ぎさがひまの日あさきふかる
ぶうあきさんまいをおうー
きんぢうあうひいたをとうま
すべてのあそびぐさぐさ人
ちびりうろざうの色
ぐすぎてぐんのひーぐうた
てまのあんがうとみげつけ
ぐさをこまをうちそれ
いいあうやうのむの安

「かとうぶーの
きうすの乃
りんくゆすで
ものの小おんうぶ
すいぐうの我おんめてとん

「三二日うまうれ
うちうま
ろうるる
ゆうか
ぬぐり
ぐうぐ
まうこ
ゆぐんのうーね

「ふんの
むしぐ
ぐうぐ
あうを
でもと
らうて
ゆうぶ
ぐさ

ぐうひとのんせーぶべ
加ちうたきふおうろた
まうせうんのくま玩りう
てぐーあたうまいをもの
ねぐりぐさとりうりて
たこまんの一ていうこんぶ
ぐーけくたをぐんぐの
りうきをう九ひふぐんの乃
こうーぶりけまた日きうん
てんをうをいぶーてえん
のむーぶこうーくもで
田ぐ者たちまちのきく
ーてーうくでんあさの
むとことうう
ふさあやりう稲んの
すをとーこのーこ
ぐり

○折檻乃苗代
○養生の田草取
○五穀の虫送

龍

「あのようなすばらしいふぎくのえをとまり
たるかしてあそこをかのろくしゃごろうりく
アレいけどそうくしいまどこんていりくとあそくろ
たこふきえがもじやろさ
「ぶそうりくくぶろりく二てんさくのく
大くあもきせうくさろきうののち
ちをあちらうのさいかりくそろぶんと
そぶくぶこぶーろうくらんちんくん
かくまでぶれよき　でうげあるぬく
田こをうまとかれさ
ほのしれでるこちハ
ようりくすぶあぶつき
ようりあるひふまくく
ちろふあくさまハきくあまとの
ものはえくうてうはこひぜ
ふふえどーれんてこえ細ちろ
ちとくあるんぷりまづてうーひ
がくうんそうぶのあくこえひつ
くろうぶふぶくうんのうりとまを
ほのきようりくすちのくうえ

「かくあどんやこえんぶく
ちるこえひくあ
ちうりふらーまの
かくーぶ
いちまくう

たちうれば田こを
てくこまをひそんも
あくながえけのふう
まをくとしあそびも
ちくえはなくてでれ
のようの田こちうふと
せそんの人も
うーやこちう

○律義
うるふ

「別れ公ぶうれよ
てくこまをれ
ぬいおやらの
かりげぶ
ちんでと
ちんうぶくと
こうりくとろく
まーちう

いろぶうりの日
「あんかうこんおやちぶうのて
あそちるふやうこぶやう
いちゆちくこうりくくと
ぶるりちーすちうせうを
ひとこいろうれくくやく
ゆげうりく

成五百十二

○恩愛の菌

○放蕩虚花

通油町
鶴喜板
壬戌
稗史
笔畊作
種蒔三世相
稿栽着
下

○金銀（きんぎん）の實入（みいり）

三せさう
女郎ゑんぶれぐろて
きていいやーきの
いろ〳〵ちゃ
二ちゃよい
ひきたい
すいそう
さうねく
ようれふ
らくすの
ぐる
○十

○身代の
野夫
枕
「くさざしの
ひとつゆあろでーこころ
たびーくろうとて
ひとーつるのでるこ
いつーこんなりくーしへやうとを
やくりんやーこーー大よやのこ
ア〳〵さてうえーこーでもなーー
「ほそ八ま五の
ゆーこんなーー
かーー八万八の
よーんーと
のだーーーーで
えもん

○十六夜ひんぎりに
ゆりらまてふつよ
ひちつまつもくさ
紙ゝやアてあ
くろのさら
しぶこてこれ
ろひきり
くんてこ
わるね
く

○十三

わるとのうちに二百
十日のあらしくたあとく
ぶんまつくたあとく
なりつゆふまちきくの
ふちがきとてうひこ
ひでこぶるあくれむ
ぶんるるとまで
こんせんしてそそ
こるなるたふも考へ
なるつひのこるる
るてゆたこもべ
なりれぞきの
ぐらゝ

○借金の水損

親慈悲連枷
田
曲
邪
色
安
酒
欲

田
不
善
疑
愚
盲
文

○一生乃豊年

「こゝやとよりやう祝ん
ちらでのジョテイく
せかーせかーせーこちら
ちゝまーちゝ
ジョテイユイく

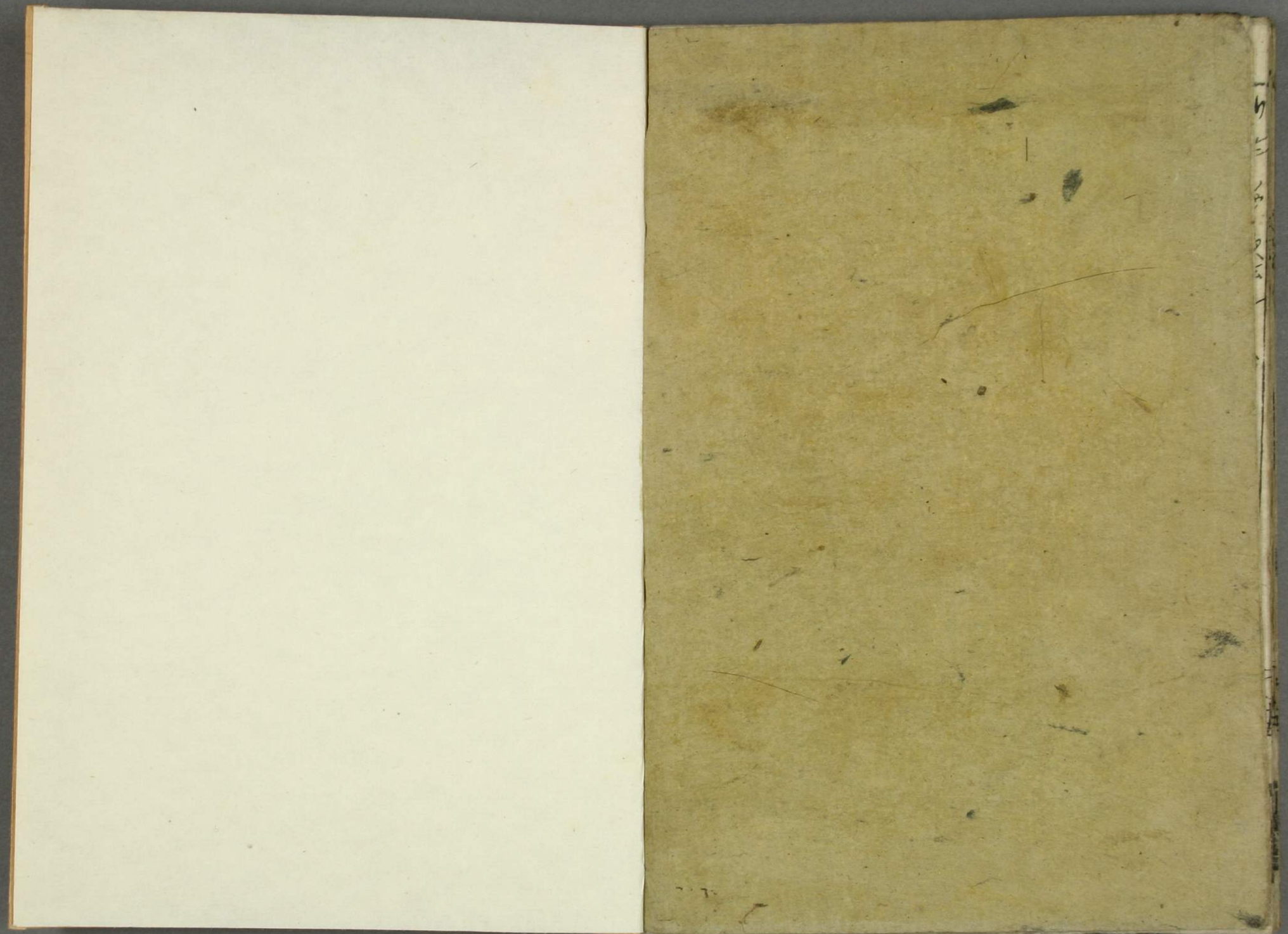
「おゆのこんぶとくらいハ
つら一ぱい祝ん
ますよおかーくあーく
ゆ祝乃ちゝ祝ちさう
まーよ

「やゝくきのくか
ぜゝく
ちんぜまーゆう

三せさう

李紳ろ農を憫詩ゆ云

鋤禾日當午　汗滴禾下土。
誰知盤中飧粒粒皆辛苦。

豊年出現大穀田

此詩のこころは五月をくてんのひるうまのときに汗をけがいかせをさりてつちとうるおしたなをうえのえんせんとまつ人えんのかをのめ〜いちまつようなりとをとこのもんにてつくりしとのかをみなりの父母のそばをうることをあのくのこしてつくりあ〜ぶ紙ををこのつあはさいたしをしのけものこかれやのえせをしてそでられ〜ふるまれいかをそのそれわりふつくしかくこころのこころのこころの